

第1章

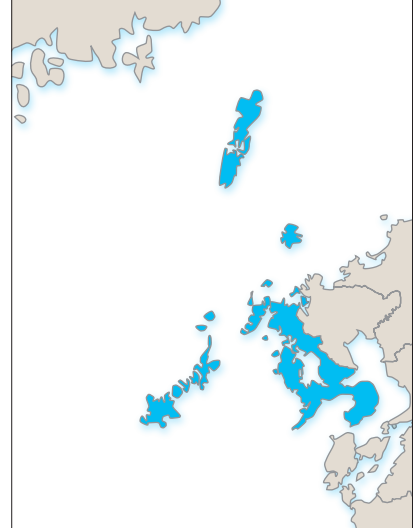
データで見る
本県水産業の現状と
取り巻く環境

データで見る本県水産業の現状と取り巻く環境

1 海況の特徴

本県は、九州の西北端に位置し、海岸線は、多くの離島、半島、岬、湾、入江を形成し、変化に富んでいます。海岸線の長さは全国の約11.8%にあたる約4,167km(※)に及び、北海道に次ぎ2番目の長さとなっています。

この海岸線に面した広大な海域には、九州西方を北上する対馬暖流のほか、済州島方面からの黄海冷水、九州からの沿岸水などが流入しており、多くの島々や複雑な海底地形により、好漁場が形成され、内湾から沖合までその漁場環境を活かした多種多様な漁業が営まれています。



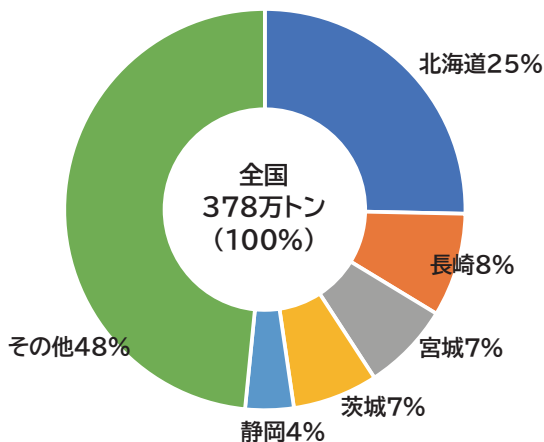
※海岸線延長 全国:35,268km
長崎県:4,167km(11.8%)

(出典)海岸統計(令和6年度版)

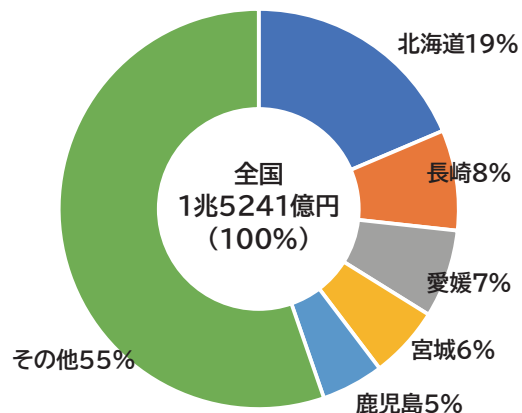
2 本県水産業の地位

令和5年の本県の海面漁業・養殖業生産量及び産出額は、北海道に次いで全国2位となっています。

海面漁業・養殖業生産量



海面漁業・養殖業産出額



令和5年 海面漁業・養殖業生産量 315,422トン
海面漁業・養殖業産出額 1,238億円

(出典)漁業・養殖業生産統計(令和5年)

本県は、全国屈指の水産県で、漁業就業者数(人口千人対)が全国1位、海面漁業・養殖業の合計の生産量・産出額は全国2位であるほか、全国1位を誇る魚種等が多数存在しています。

◆漁業就業者数(人口千人対)	全国1位	農林水産省「漁業センサス」(R5.11.1) 総務省「推計人口」(R5.10.1)
◆海面漁業・養殖業生産量	全国2位	農林水産省「漁業・養殖業生産統計」(R5年)
◆海面漁業・養殖業産出額	全国2位	農林水産省「漁業・養殖業生産統計」(R5年)
◆海面漁業生産量	全国2位	農林水産省「漁業・養殖業生産統計」(R5年)
◆海面漁業産出額	全国2位	農林水産省「漁業・養殖業生産統計」(R5年)
◆海面漁業魚種別生産量		
クロマグロ、ウルメイワシ、カタクチイワシ、マアジ、サバ類、アナゴ類、マダイ、チダイ、キダイ、イサキ、サザエ	全国1位	農林水産省「漁業・養殖業生産統計」(R5年)
ムロアジ類、ブリ類、タチウオ、アマダイ類、その他のイカ類(スルメイカ以外)、その他のマグロ類(クロマグロ、ビンナガ、メバチ、キハダ以外)	全国2位	
クルマエビ	全国3位	
その他のカジキ類、ガザミ類	全国4位	
ソウダガツオ類、マイワシ、ヘダイ、スルメイカ	全国5位	
◆海面養殖業生産量	全国12位	農林水産省「漁業・養殖業生産統計」(R5年)
◆養殖品目別生産量		
フグ類、クロマグロ、真珠	全国1位	農林水産省「漁業・養殖業生産統計」(R5年)
その他のブリ類(ブリ、カンパチ以外)	全国2位	
マアジ	全国3位	
ヒラメ	全国4位	
ブリ、シマアジ、マダイ、コンブ類	全国5位	
◆漁船数	全国2位	農林水産省「漁業センサス」(R5.11.1)
◆漁港数	全国2位	水産庁HP「都道府県別漁港管理者別漁港数一覧」(R7.4.1)
◆煮干し品生産量	全国2位	農林水産省「漁業センサス」(R5.11.1)
◆冷凍水産物生産量	全国4位	農林水産省「漁業センサス」(R5.11.1)

第1章
データで見る
本県水産業の現状と
取り巻く環境

第2章
前計画の成果検証

第3章
本県水産業を
取り巻く情勢変化と
課題

第4章
計画の主旨

第5章
基本目標別の
取組方針

第6章
海区別の取組方針

第7章
試験研究の取組方針

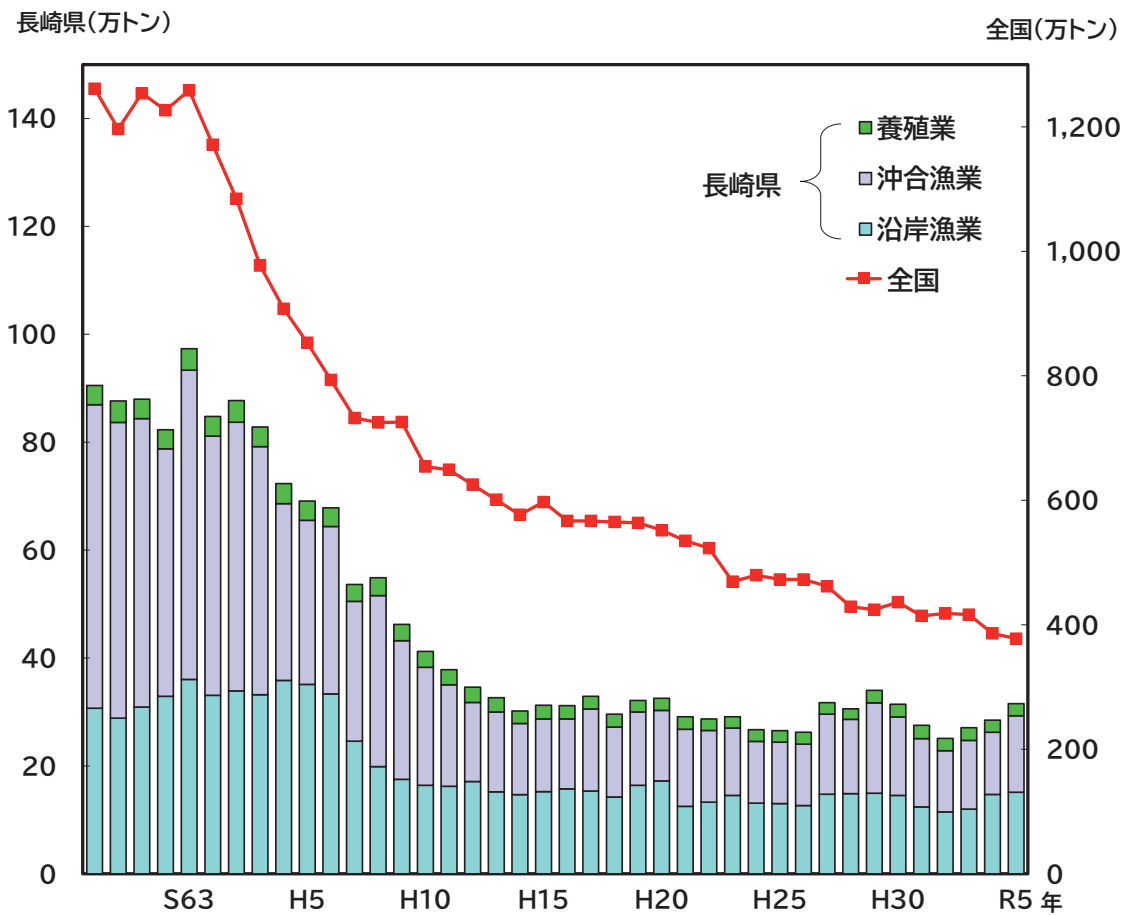
第8章
私たち若手職員が
描いていく長崎県の
水産業の将来像

3 本県水産業の現状

①海面漁業・養殖業生産量

- 本県の海面漁業・養殖業の生産量は、昭和50年代のピークから減少し、直近20年間は概ね25～35万トンと横ばいで推移しています。
- 直近5カ年の沖合漁業^{*}(大臣管理)や中小型まき網漁業の生産量は、マイワシやサバ類等の伸びにより増加傾向であり、養殖生産量は概ね横ばいで推移しています。

海面漁業・養殖業の生産量の推移



(単位:万トン)

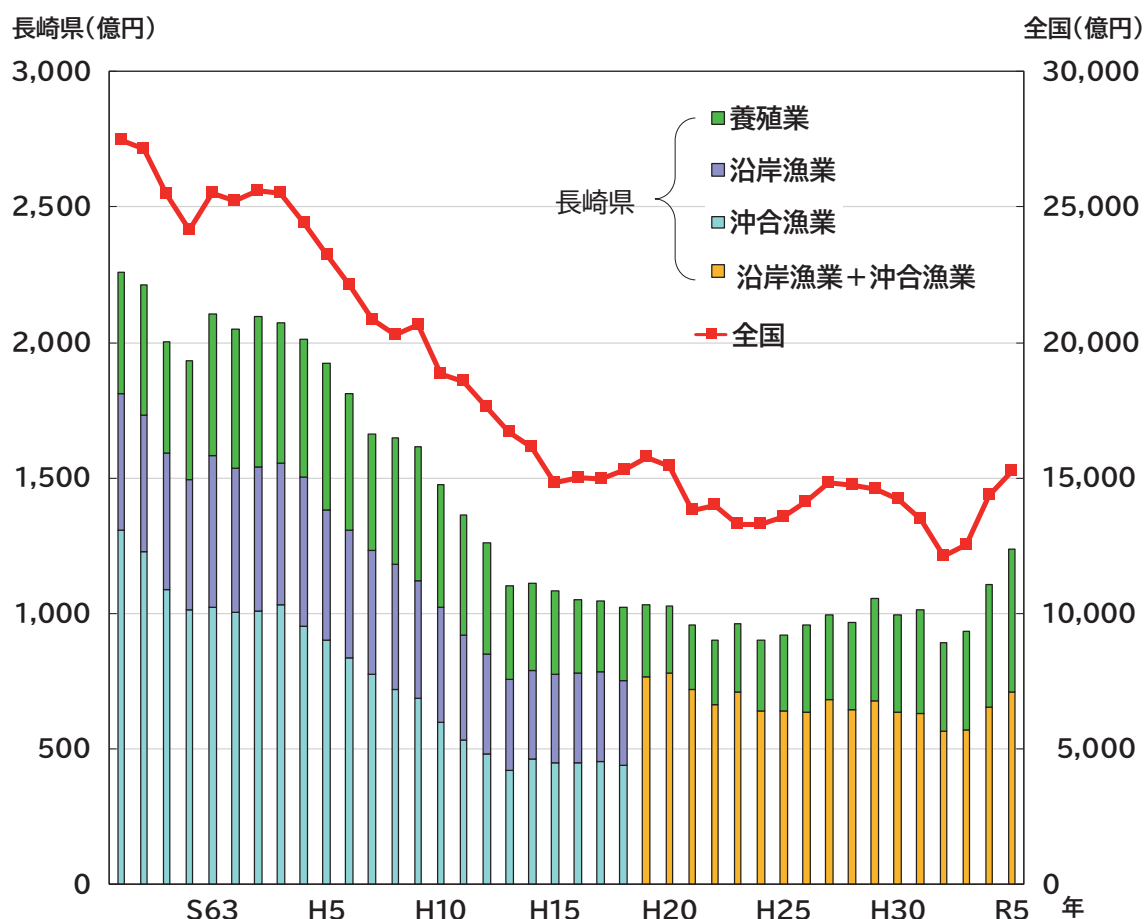
	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年
海面漁業	29.1	25.1	22.8	24.7	26.2	29.3
海面養殖業	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3
合計	31.4	27.5	25.1	27.1	28.5	31.5

(出典) 漁業・養殖業生産統計

②海面漁業・養殖業産出額

- 海面漁業・養殖業の産出額は、昭和50年代のピーク以降減少し、直近20年間は1,000億円前後で概ね横ばいで推移しています。
- 令和5年は、まき網等の生産量増加、全国的な魚価の上昇、養殖のブリ類や真珠の伸びなどにより、平成13年以後初めて1,200億円台となりました。

漁業・養殖業の産出額の推移



(単位:億円)

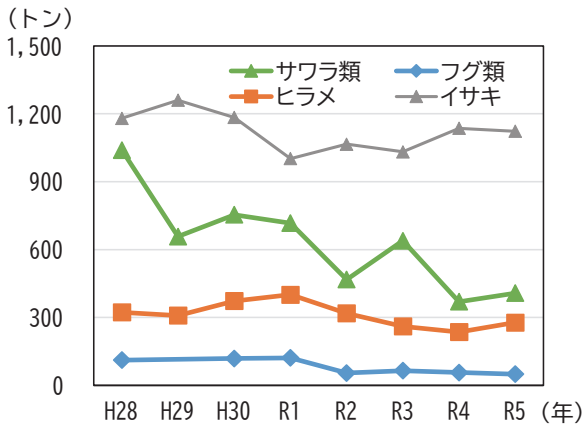
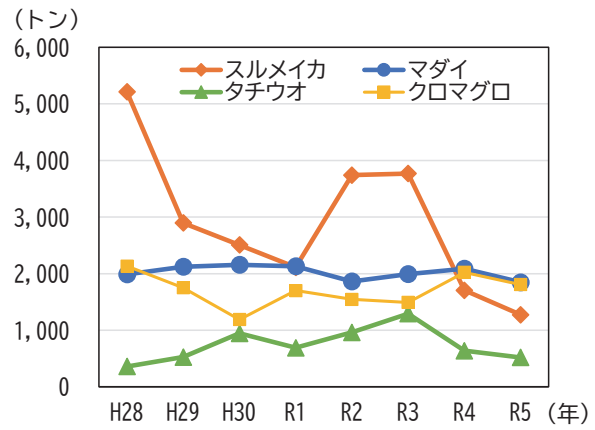
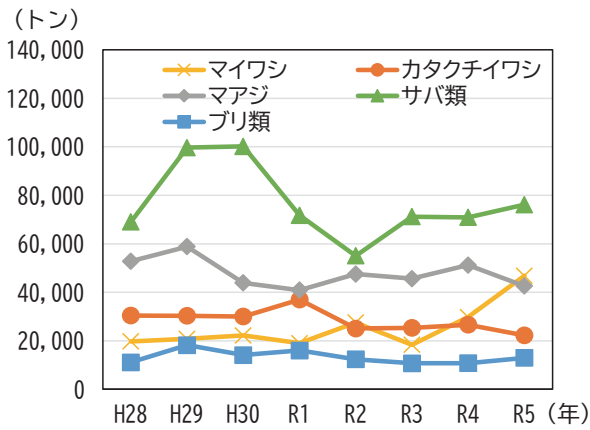
	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年
海面漁業	636	629	564	571	653	709
海面養殖業	360	384	328	365	456	529
合計	996	1,013	893	936	1,109	1,238

(出典)漁業・養殖業生産統計

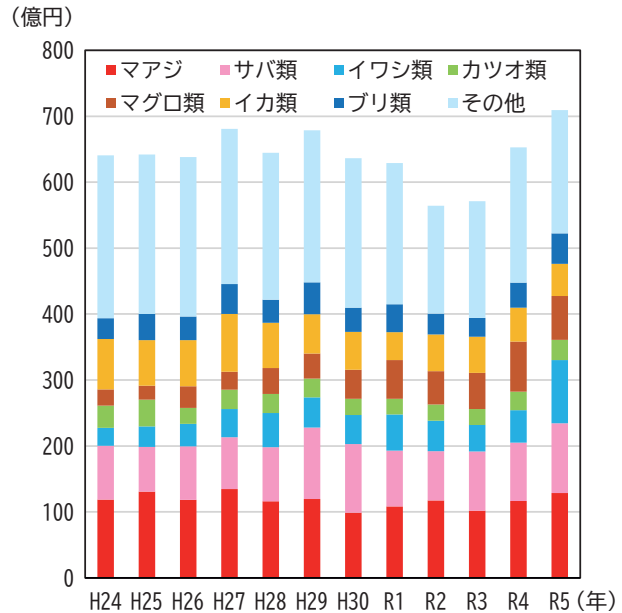
③海面漁業の主要魚種別の生産動向

- 直近5年間の海面漁業の魚種別生産量は、マイワシが増加、マアジとサバ類は概ね横ばい、カタクチイワシは減少傾向で推移しています。
- ブリ類、マダイの生産量は概ね横ばいで推移しています。
- スルメイカの生産量はピーク時に比べて低調で推移しており、クロマグロは、近年やや増加傾向で推移しています。
- 魚種別の生産額では、マアジ、サバ類、イワシ類、マグロ類が伸びており、イカ類やその他の魚種は減少しています。

主要魚種別生産量の推移



主要魚種別生産額の推移

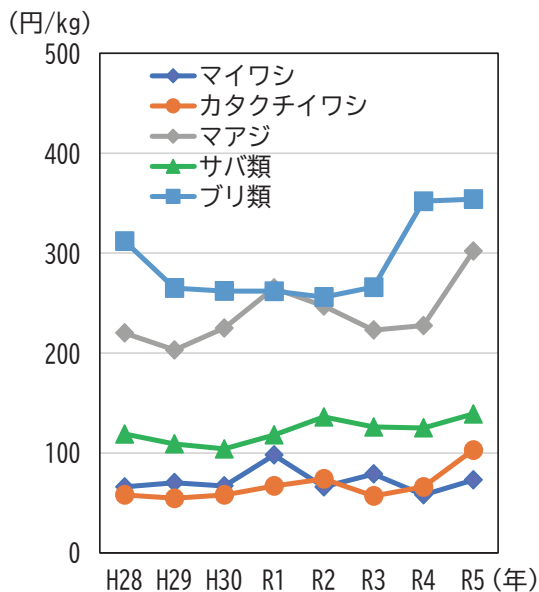
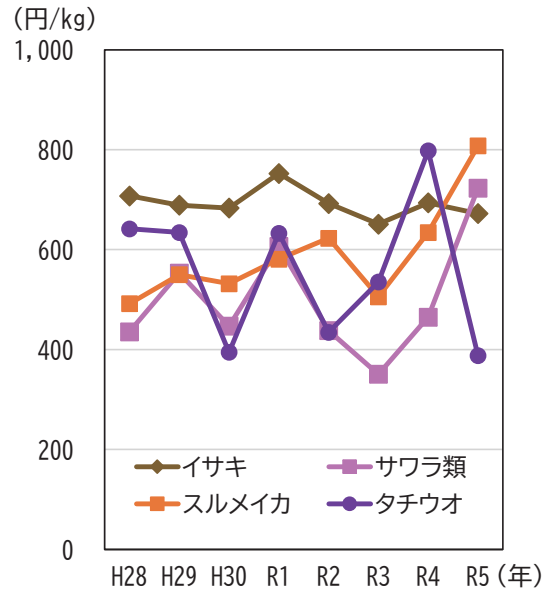
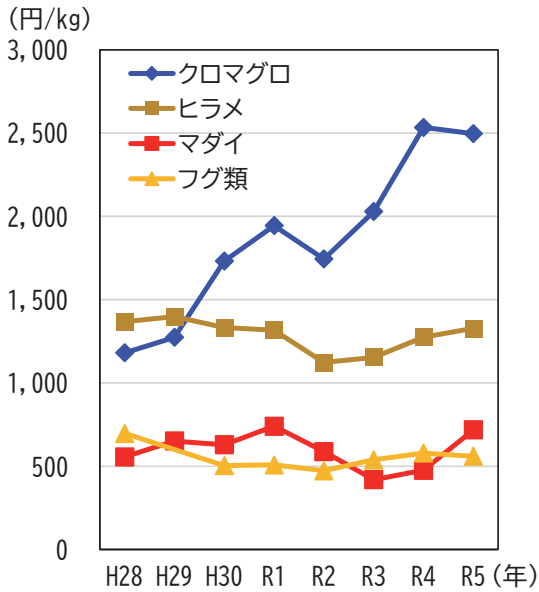


(出典) 漁業・養殖業生産統計

④海面漁業の魚価の動向

- コロナ禍による世界的な経済の停滞からの回復や、急速な円安による海外産水産物の価格上昇、国内生産の減少による価格高騰などから、令和3年以降全国的に魚価が上昇傾向にあり、本県でも全体的に横ばい又は上昇傾向で推移しています。
- 本県の主要魚種としては、クロマグロ、ブリ類、マアジ、スルメイカ、サワラ類等の単価が上昇しています。

主要魚種(海面漁業)の平均単価の推移



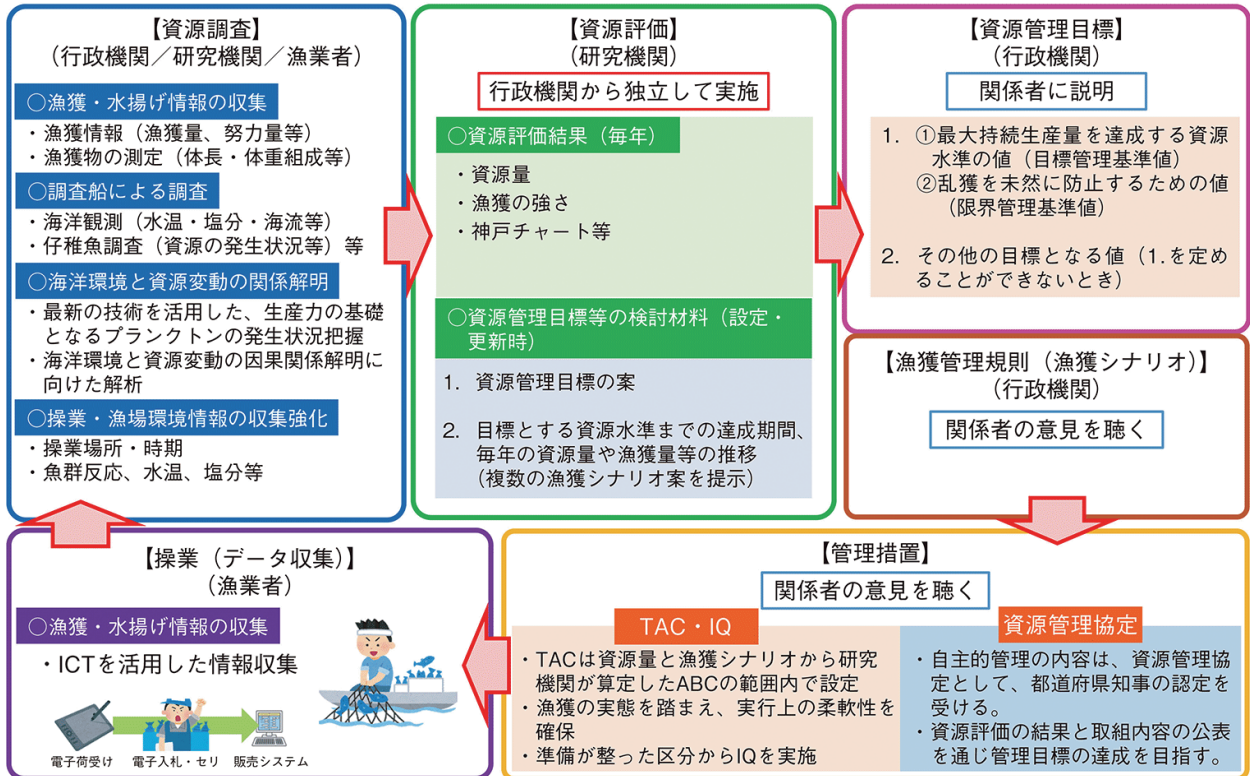
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
クロマグロ	1,181	1,274	1,732	1,944	1,744	2,029	2,534	2,496
マイワシ	66	70	67	98	66	79	58	73
カタクチイワシ	58	55	58	67	74	57	66	103
マアジ	220	203	225	265	247	223	227	302
サバ類	119	109	104	118	136	126	125	139
ブリ類	312	265	262	262	256	266	352	354
ヒラメ	1,368	1,398	1,332	1,317	1,122	1,153	1,275	1,327
タチウオ	642	634	395	633	435	535	798	388
マダイ	556	651	629	740	588	419	476	718
イサキ	708	689	683	752	692	651	694	672
サワラ類	436	553	447	607	438	351	465	723
フグ類	696	-	504	508	473	538	579	560
スルメイカ	492	550	532	581	623	506	634	808

(出典) 漁業・養殖業生産統計から、生産額/生産量で算定

⑤水産資源の管理

- 令和2年に施行された改正漁業法による資源管理では、漁獲・水揚げ情報などを基に科学的な調査や評価を行い、効果的な資源管理措置を実施し、資源の維持・増大による安定した漁業の実現を目指しています。
- 県では、国と連携して水産資源の調査や評価を行うとともに、漁業者自身による自主的な管理措置を定めた資源管理協定^{*}の効果の検証や、改良に取り組むこととしています。

漁業法に基づく資源管理の流れ

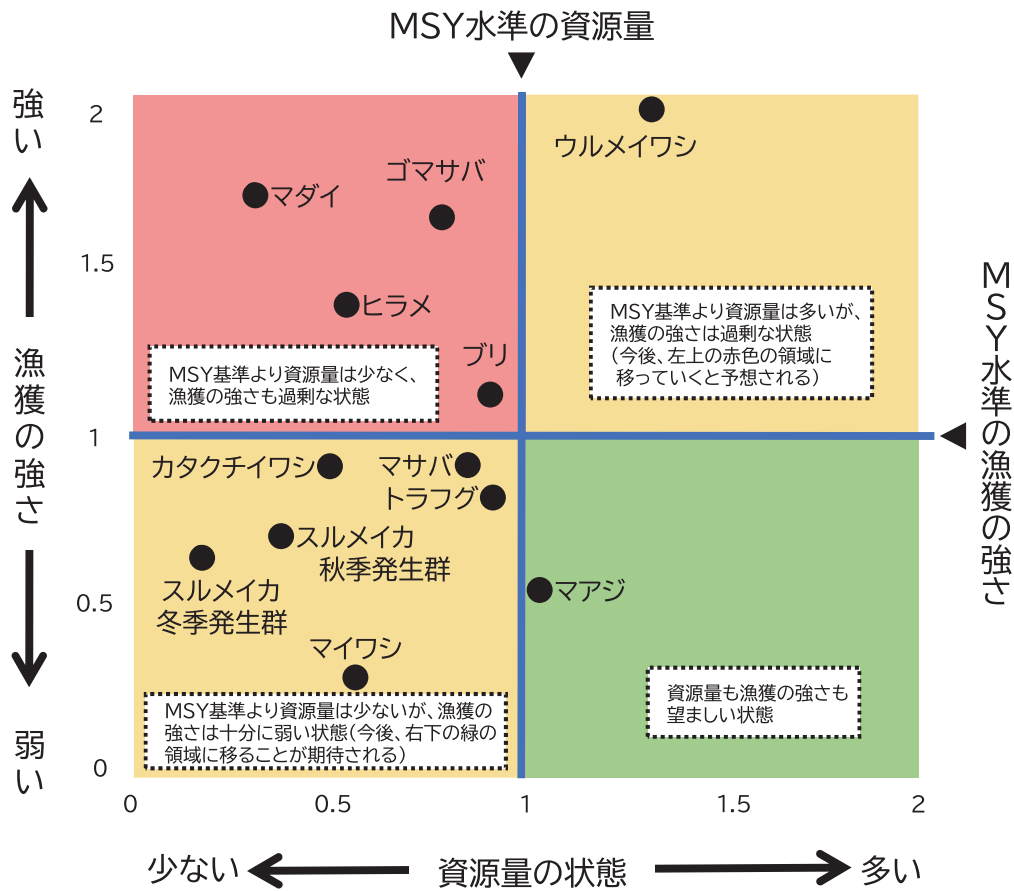


(出典)水産庁「水産白書」

⑥ 主な水産資源の資源評価

- 水産資源は、適度な資源量(少なすぎず、多すぎない)を維持することで、最大の漁獲量(MSY^{*})が得られるとされ、漁業法ではMSYを基準(目標)に資源管理を行うと規定されています。
- 国は資源評価によるTAC^{*}管理を推進しており、令和6年度末までに全国22種38資源で資源評価を行いました。

最大持続生産量(MSY)を基準とした資源評価(長崎県関係)

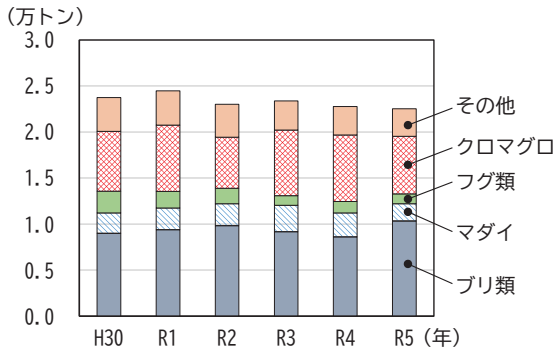


(出典) 水産庁、水産研究・教育機構「我が国周辺の水産資源の評価」に基づき県で作成

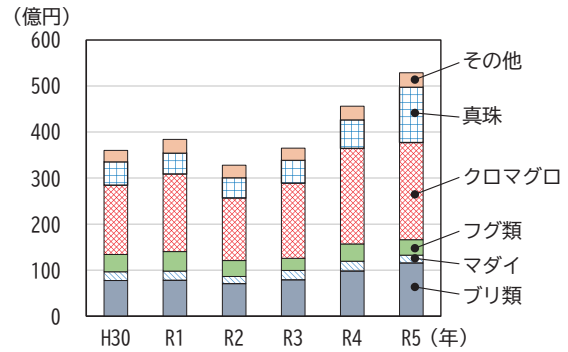
⑦海面養殖業の品目別の生産動向等

- 近年の海面養殖業の生産量の推移は、ブリ類は増加、クロマグロは横ばいであり、マダイ、フグ類は減少しています。
- 産出額については、ブリ類とクロマグロ、真珠が増加しており、令和5年は真珠の単価の大幅な上昇等により、県全体の産出額は500億円を超えました。
- 養殖用飼餌料の価格は高止まりしており、養殖経営の負担となっています。

養殖品目別生産量の推移



養殖品目別産出額の推移



(単位:トン ※真珠はkg)

	H30	R1	R2	R3	R4	R5
ブリ類	8,990	9,382	9,830	9,176	8,608	10,326
マダイ	2,234	2,368	2,368	2,862	2,609	1,882
フグ類	2,353	1,801	1,689	1,038	1,237	1,083
クロマグロ	6,502	7,188	5,556	7,144	7,233	6,253
真珠 ※	6,961	6,006	5,685	5,266	5,307	5,429
その他	3,666	3,723	3,572	3,152	3,091	2,983
合計	30,706	24,468	23,021	23,377	22,783	22,532

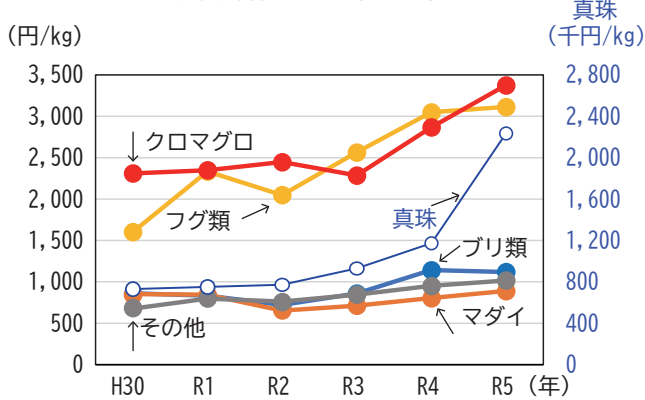
(出典) 漁業・養殖業生産統計

(単位:百万円)

	H30	R1	R2	R3	R4	R5
ブリ類	7,755	7,826	7,081	7,888	9,825	11,562
マダイ	1,906	1,999	1,545	2,038	2,097	1,675
フグ類	3,769	4,203	3,460	2,661	3,772	3,372
クロマグロ	15,020	16,884	13,596	16,324	20,737	21,098
真珠	5,080	4,510	4,386	4,934	6,227	12,031
その他	2,477	2,973	2,725	2,632	2,941	3,132
合計	36,007	38,395	32,793	36,477	45,599	52,870

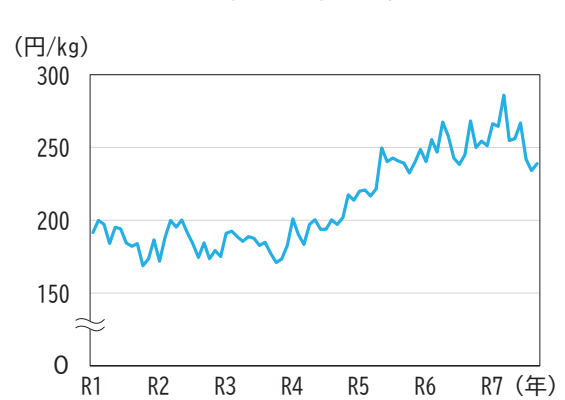
(出典) 漁業・養殖業生産統計

養殖品目別単価の推移



(出典) 漁業・養殖業生産統計から、産出額/生産量で算定

配合飼料の単価の推移

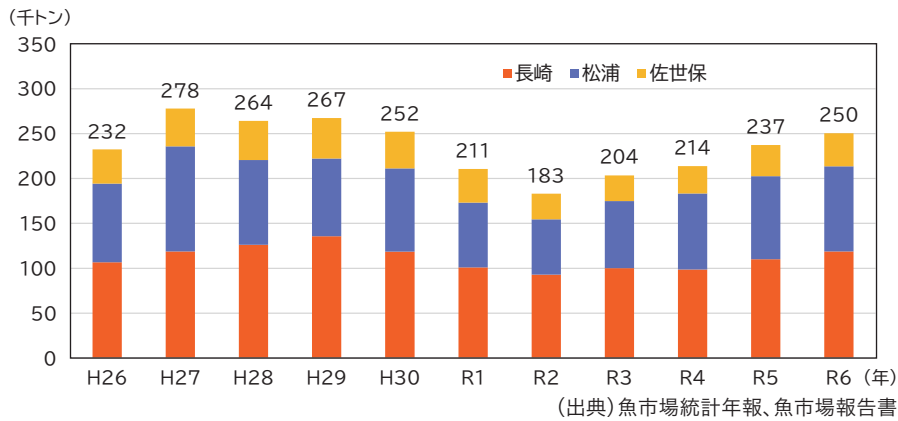


(出典) (一社) 漁業経営安定化推進協会公表データ

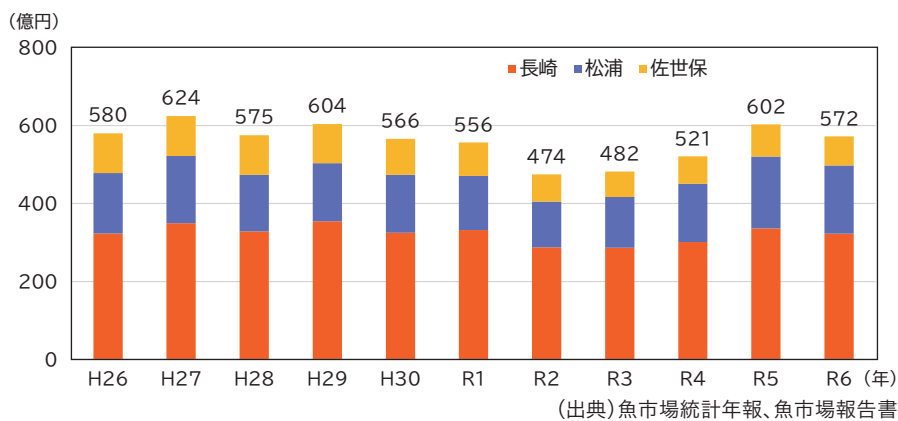
⑧産地魚市場の状況

- 県内の主要3魚市場（長崎、佐世保、松浦）の取扱量は、近年増加傾向にあり、令和6年の取扱量は合計で約25万トンでした。
- 魚市場全体の水揚量の約9割がまき網漁業の漁獲物となっています。
- 魚市場では、魚の選別作業等に必要な人員が不足しています。

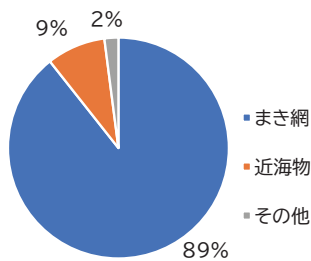
県内主要3魚市場の取扱量の推移



県内主要3魚市場の取扱金額の推移



県内主要3魚市場の漁業種類別水揚割合 (R6年)



県内主要3魚市場の選別作業員の不足状況 (令和7年4月時点)

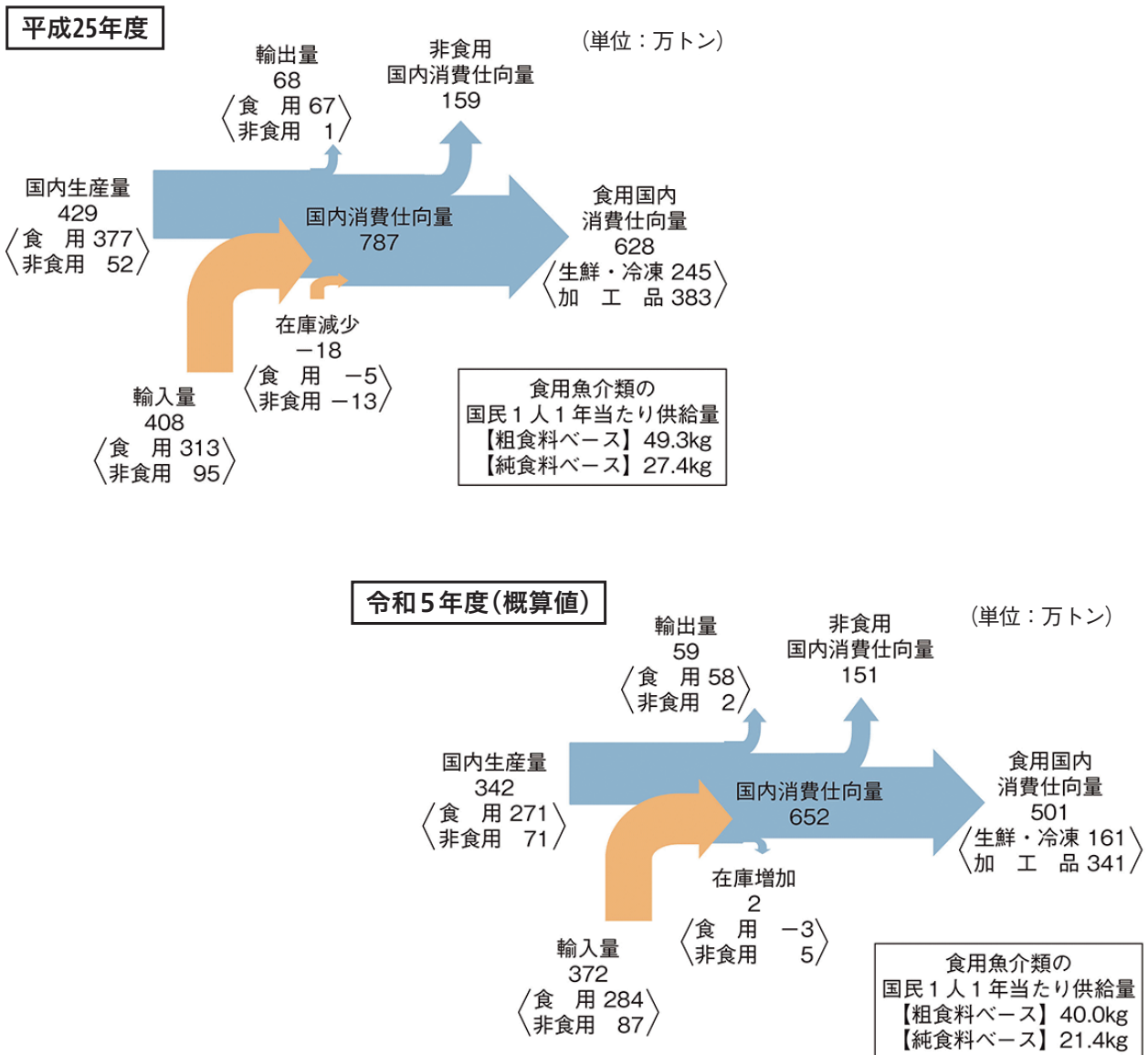
	必要人員	雇用者数	不足人数
3魚市場合計	210人	135人	75人

(出典) 県調べ

⑨国内の水産物需要の動向

- 我が国の魚介類の国内消費仕向量(原魚換算ベース)は、平成25年度から令和5年度にかけて、国内生産量が87万トン(20%)、輸入量が36万トン(9%)減少し、135万トン(17%)縮小しています。
- 令和5年度の国内消費仕向量は652万トンで、501万トン(77%)が食用、151万トン(23%)が非食用(飼肥料用)となっています。
- 食用国内消費仕向量に占める加工品の割合は、平成25年度の約6割から令和5年度の7割に上昇しています。

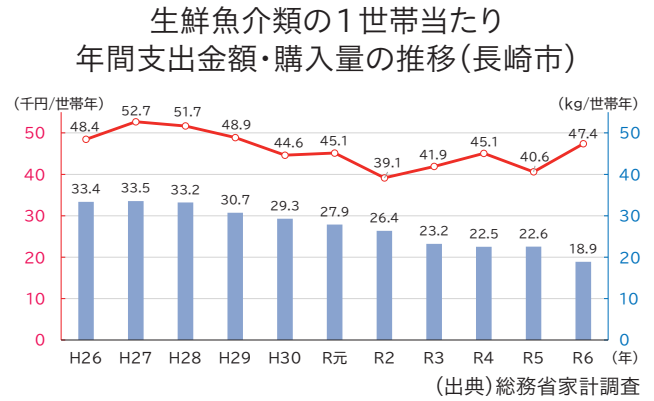
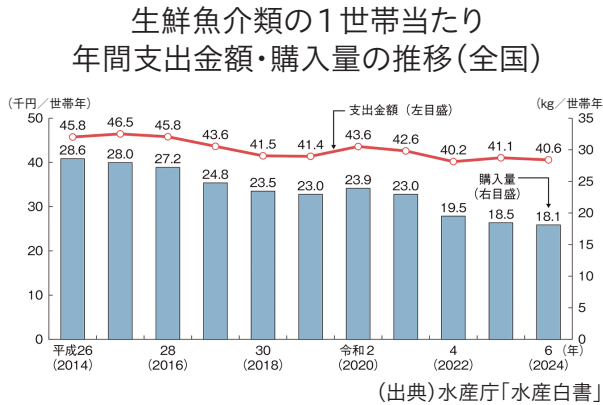
国内の水産物需給の動向



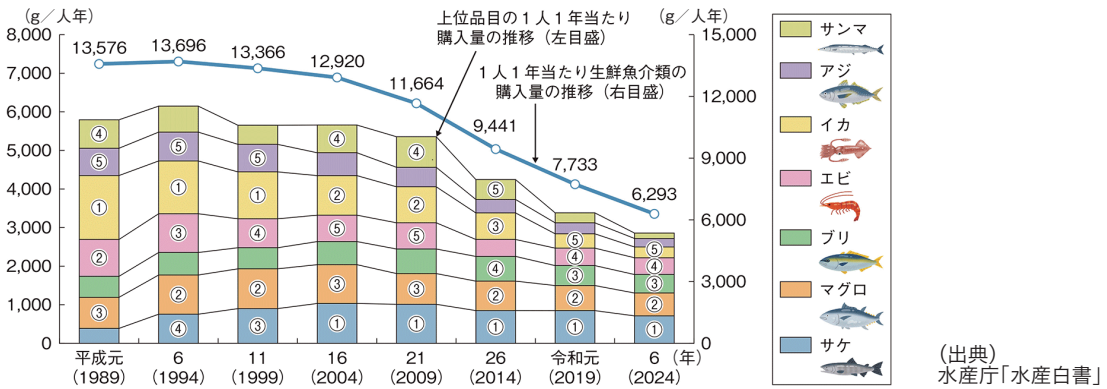
(出典)水産庁「水産白書」

⑩国内の水産物消費の動向

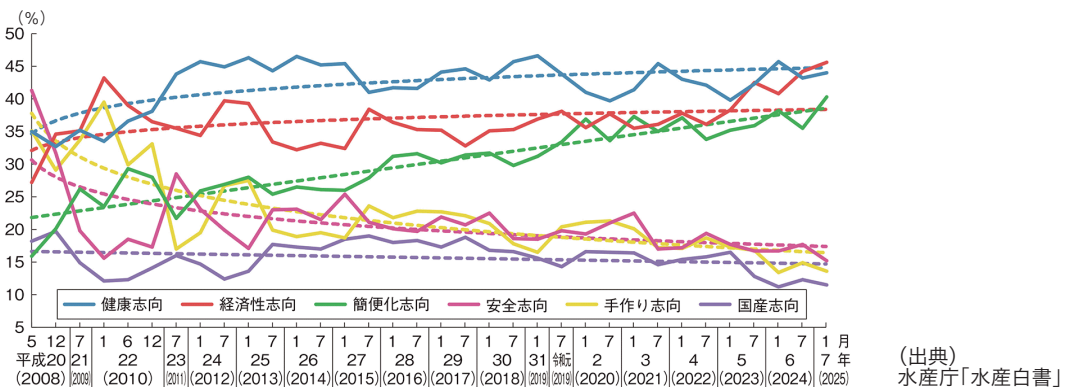
- 生鮮魚介類の1世帯当たり購入量は減少傾向にあります。これに対し、支出金額は、価格上昇等の影響もあり、横ばいまたはやや上昇傾向にあります。
- 国内の1人1年当たり生鮮魚介類の購入量は減少を続けており、購入品目の上位は、サケ、マグロ、ブリとなっています。
- 水産物に対する消費者の意識は、健康志向、経済性志向、簡便化志向の割合が上位を占め、特に簡便化志向の上昇が顕著になっています。



生鮮魚介類の1人1年当たり購入量及びその上位品目の購入量の変化



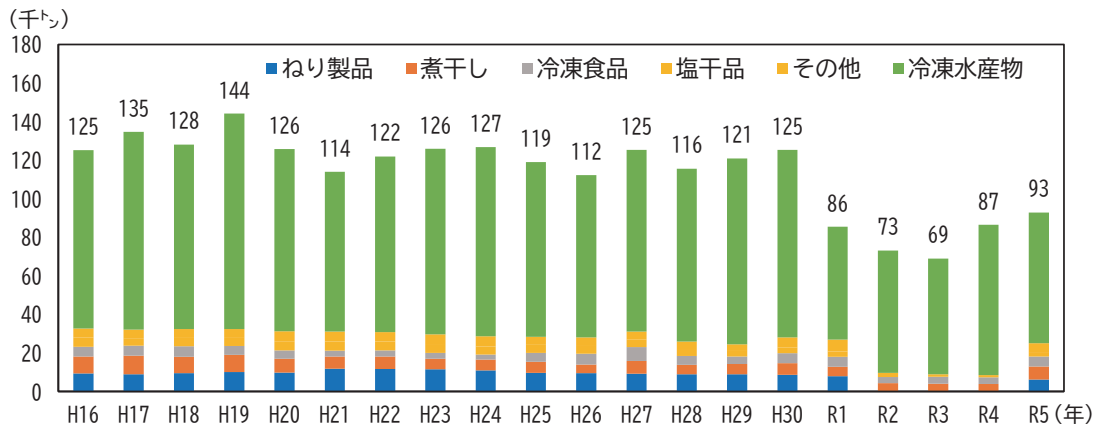
消費者の食の志向(上位)の推移



⑪水産加工業

- 本県の水産加工品の生産量は平成30年まで11.2～14.4万トンで推移していましたが、令和元年から10万トンを下回っています。
- 全体の約7割が冷凍水産物で、食用加工品の割合が低い状況であり、令和5年の統計では煮干しが全国2位、冷凍水産物が全国4位となっています。
- 生産額は、令和2年に落ち込みましたが、その後回復し、令和3年以降は500億円程度を維持しています。
- 本県の水産加工業は、全国平均と比べて小規模経営が多い状況です。

長崎県の主要な水産加工品の生産量の推移



(出典)農林水産省「水産加工統計調査」(H25、H30、R5は漁業センサス)

※「ねり製品」「その他」は、R2～4年は主産県以外の生産量が公表されていないため、計上していない
 ※煮干しは「するめ」、冷凍食品は「水産調理食品」、塩干品は「アジ」「サバ」、煮干しは「いわし」「その他」を集計

長崎県の水産加工品の生産額の推移

(生産額の単位:億円)(年)

業種	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
水産缶詰・瓶詰製造業	32	31	30	32	26	30	経済センサス実施に伴い算出されず	30	27	31	34	24	23	24	27
海藻加工業	39	32	x	23	25	25		25	26	28	32	42	36	37	42
水産練製品製造業	104	102	108	97	92	91		90	88	86	79	70	70	67	68
塩干・塩蔵品製造業	10	13	17	21	22	27		37	26	45	34	33	24	30	29
冷凍水産食品製造業	94	90	x	77	78	81		82	71	76	62	68	70	119	84
その他(素干・煮干等)	154	137	151	127	117	113		112	123	113	106	76	92	88	80
食用加工品製造業 計	434	405	306	377	360	367		377	361	377	347	312	316	367	330
冷凍水産物製造業	38	29	x	120	134	134		148	170	149	142	91	178	136	169
合計	472	434	450	497	494	501	525	531	526	488	403	494	503	499	

(出典)工業統計及び経済構造実態調査

令和5年の長崎県の主要な水産加工品の品目別生産量

	生産(トン)		割合	全国 順位
	全国	長崎	長崎県/全国	
ねり製品	366,023	6,326	1.73%	17
冷凍食品	263,668	5,220	1.98%	16
素干し品	5,846	130	2.23%	7
塩干品	97,002	2,248	2.32%	14
煮干し品	56,788	6,671	11.75%	2
塩蔵品	141,648	219	0.15%	23
くん製品	3,309	6	0.18%	10
節製品	66,186	332	0.50%	11
その他の食用加工品	280,918	3,989	1.42%	23
冷凍水産物	985,880	67,754	6.87%	4

※ねり製品はかまぼこ類、全国順位は、公表数値の単純集計により算出

(出典)2023年漁業センサス

令和5年の長崎県の水産加工業の規模など

	製造品出荷額 総計(百万円)	事業所数	従業者数 (人)	1事業所あたり 従業者数(人)	1事業所あたり 出荷額(百万円)
全国平均	79,601	103	2,798	27	773
長崎県	49,983	132	2,820	21	379

(出典)経済構造実態調査

第1章 データで見る
本県水産業の現状と
取り巻く環境

第2章 前計画の成果検証

第3章 本県水産業を
取り巻く情勢変化と
課題

第4章 計画の主旨

第5章 基本目標別の
取組方針

第6章 海区別の取組方針

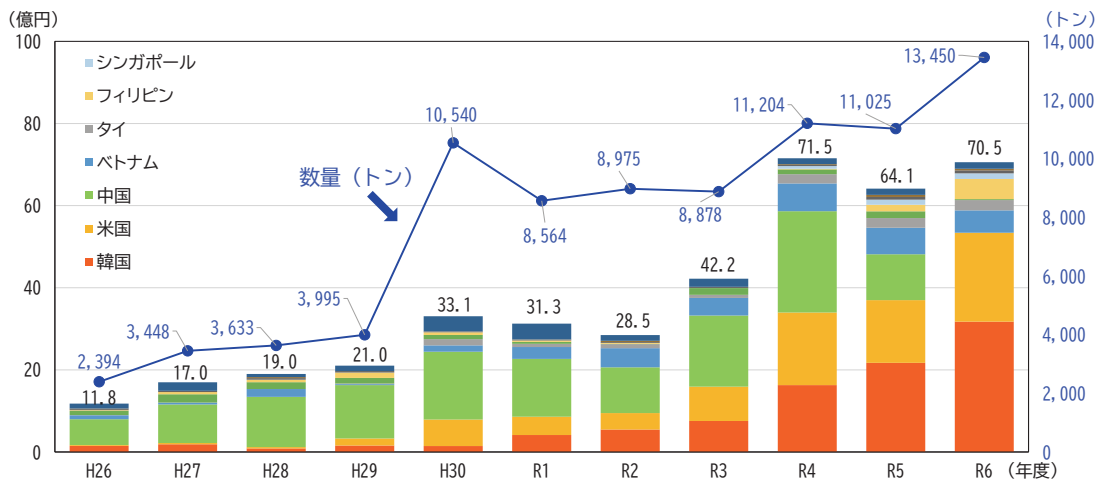
第7章 試験研究の取組方針

第8章 私たち若手職員が
描いていく長崎県の
水産業の将来像

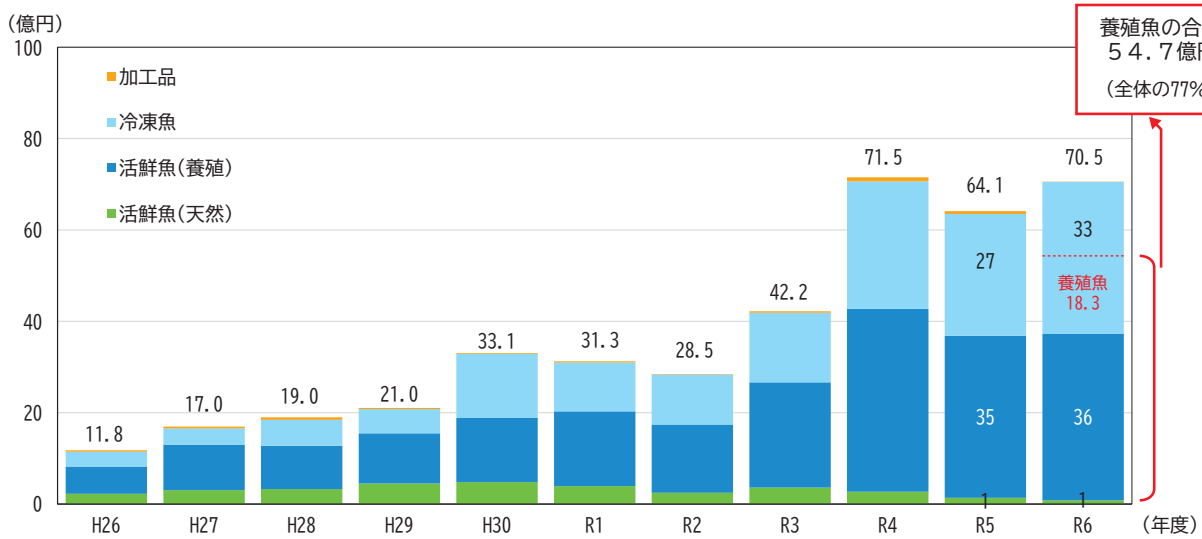
⑫水産物の輸出

- 令和6年度の本県の水産物輸出実績は約70億円となりました。令和5年8月以降ALPS処理水[※]放出の影響で中国輸出は停止していますが、韓国や米国への養殖ブリの輸出が伸び、前年度より約6億円増加しました。
- 輸出先は、金額上位から順に、韓国、米国、ベトナムでした。(中国輸出が最も多かった令和4年度は、中国、米国、韓国の順)
- 令和6年度の輸出の主要品目は養殖魚(クロマグロ、ブリ等)で、本県の水産物輸出額の77%を占めています。

本県水産物輸出額の推移
(輸出先別)



(形態別)

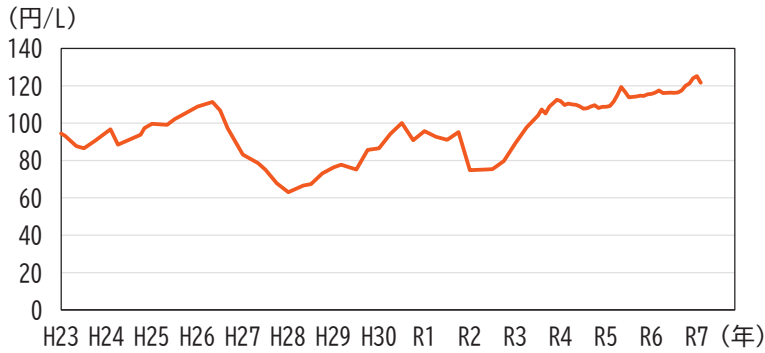


(出典)長崎県水産物海外普及協議会及び民間企業等への聞き取りによる実績

⑬ 漁業経営と所得

- 燃油価格は、令和4年から110～120円/L台で高止まりしています。燃油費は個人経営体の漁労支出の約2割を占めるため、漁業経営の大きな負担となっています。
- 漁業種類や地域の差はありますが、全体的な水産物の価格上昇等により、県内の1経営体あたりの平均漁業所得額[※]は上昇しています。

A重油の県内小売価格の推移

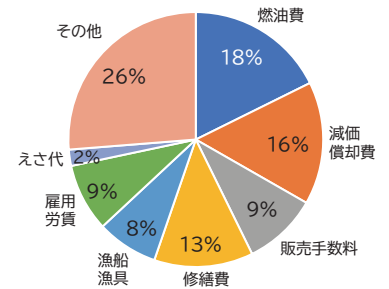


年平均価格 (円/L) (年)

年	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
価格 (円/L)	90	92	98	108	83	66	76	92	93	80	96	109	112	116	122

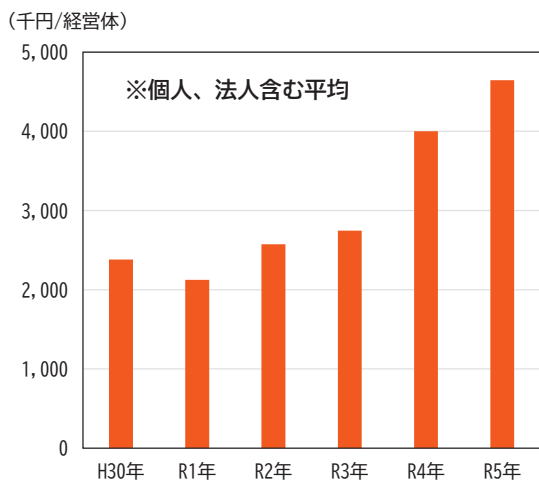
(出典) 県内漁協聞き取り結果を基に県で作成

東シナ海区における個人経営体の漁労支出の構成割合 (R5年)



(出典) 漁業経営調査報告

1経営体あたりの平均漁業所得の推移 (県)



(出典) 浜の活力再生プランの所得データから県で作成

個人経営体の平均漁業所得の推移 (全国)

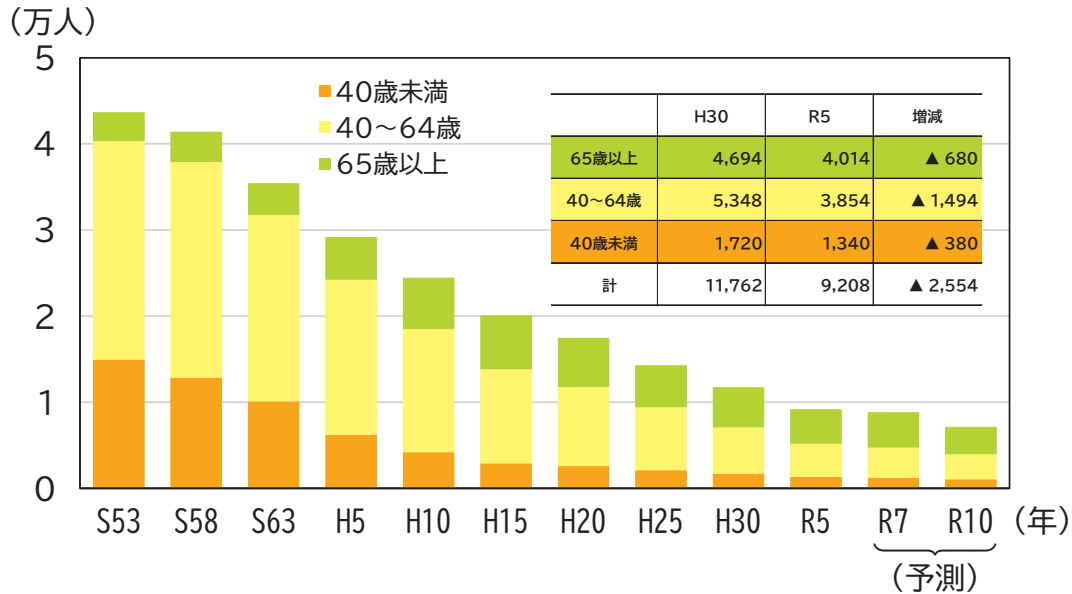
	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年
漁船漁業	2,082	2,034	2,068	1,964	2,522	2,191
漁船漁業 ※基幹的従事者が65歳未満	5,447	4,299	4,220	3,861	5,428	7,026
海面養殖業	8,826	6,577	7,863	8,336	10,616	15,329

(出典) 水産庁「水産白書」を基に作成

⑭ 漁業就業者

- 県内の漁業就業者は減少傾向にあり、令和5年には9,208人となり、直近5年間で約2割減少しています。また、65歳以上が全体の4割以上を占め、高齢化が進行しています。
- 平成30年と令和5年の漁業就業者の年齢構成を見ると、40～64歳が約1.5千人減少しており、この傾向から令和10年の漁業就業者を予測すると7,138人となり、高齢化もさらに進行すると想定されます。

長崎県の漁業就業者数の推移



長崎県の漁業就業者の年齢階層別構成比の推移

調査年	就業者数(人)	40歳未満	40～64歳	65歳以上
S53	43,674	34%	58%	8%
S58	41,414	31%	60%	9%
S63	35,445	28%	61%	10%
H5	29,189	21%	62%	17%
H10	24,377	17%	58%	25%
H15	20,091	15%	54%	31%
H20	17,466	15%	52%	33%
H25	14,310	15%	51%	34%
H30	11,762	15%	45%	40%
R5	9,208	15%	42%	44%
R7(予測)	8,942	14%	39%	46%
R10(予測)	7,138	15%	40%	45%

(出典) 漁業センサスを基に県で作成

⑮新規漁業就業者

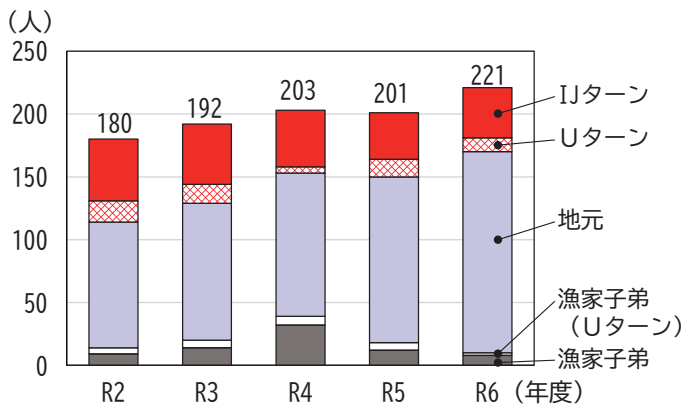
- 本県の新規漁業就業者は概ね増加しており、直近5年間の平均は約199名/年となっています。また、移住者(U I Jターン[※])が年間60名程度就業しています。
- 直近5年間の新規就業者の年齢層は、全体の5割以上が40歳未満で、全体の7%が女性となっています。
- 新規漁業就業者の定着率は、就業5年後で約7割程度となっています。

長崎県の新規漁業就業者数の推移

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
実績(人)	146	152	152	170	136	163	175	165	183	187	180	192	203	201	221
5カ年平均	151					175					199				

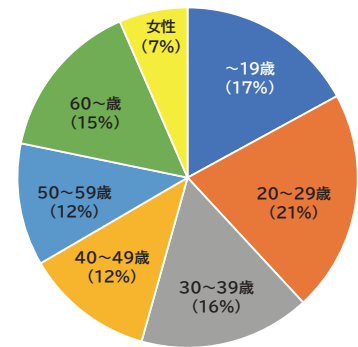
(出典)県調べ

新規漁業就業者数の出身区分別推移



(出典)県調べ

新規漁業就業者の年齢構成比 (R2～6年の平均)



(出典)県調べ

新規漁業就業者の定着状況

各年度の 新規漁業就業者数(人)	定着人数の推移(人)				
	1年後	2年後	3年後	4年後	5年後
H22	146	132	132	106	102
H23	152	138	135	130	116
H24	152	132	125	120	111
H25	170	152	148	141	129
H26	136	121	113	109	102
H27	163	140	131	131	124
H28	175	158	153	145	138
H29	165	147	138	129	112
H30	183	171	145	134	123
R1	187	166	155	148	
R2	180	154	143	142	
R3	192	163	158		
R4	203				
R5	201				
定着率(%)		89%	84%	79%	76%

(出典)県調べ

⑩雇用型漁業における人材確保の状況

- 中小型まき網漁業や定置網漁業、養殖業は、漁村地域において重要な雇用の受け皿となっています。
- 国内人材の確保が困難であり、就業者の高齢化も進んでいる状況に対応するため、まき網や定置網、養殖業を中心に技能実習制度[※]等を活用して外国人材を積極的に雇用しています。

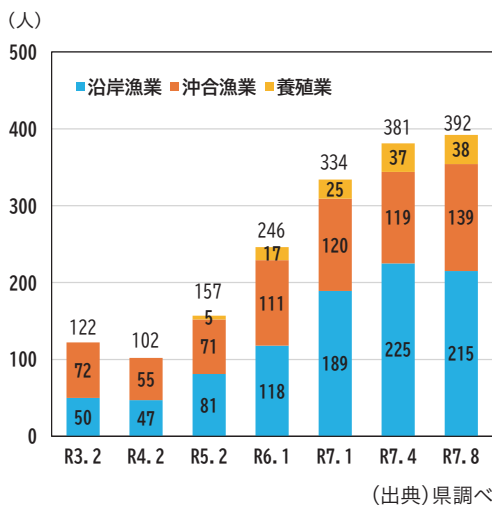
主な雇用型漁業の経営体数、雇用者数など

	H30年			R5年			R5年/H30年	
	漁獲量 (千トン)	経営体数	雇用者数 (人)	漁獲量 (千トン)	経営体数	雇用者数 (人)	経営体数	雇用者数
中小型まき網他 [※]	106	55	787	118	41	592	74.5%	75.2%
定置網	12	257	549	12	209	548	81.3%	99.8%
養殖業	24	556	1,510	23	442	1,108	79.5%	73.4%
県全体	314	5,998	4,404	315	4,804	3,526	80.1%	80.1%

※中小型まき網他：漁業センサスで、海面漁業の雇用者数等は漁業種類別ではなく漁船のトン数階層別に集計されているため、中小型まき網が主体と考えられる30～200トンの階層の雇用者数等を集計した。

(出典) 漁業センサスを基に県で作成

外国人材の受入人数の推移



漁業種類別の外国人材の受入実態

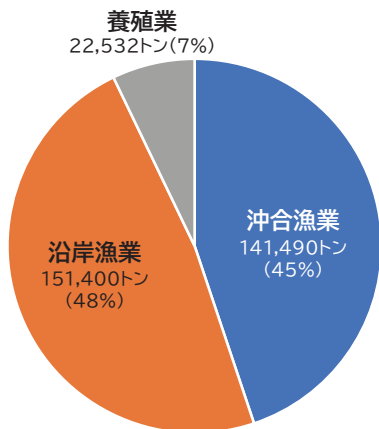
業種	技能実習		特定技能	
	受入経営体	受入人数	受入経営体	受入人数
沖合固定式さし網	2	4	0	0
東シナ海カジキ等流し網	4	18	1	1
中小型まき網	8	20	22	92
いか釣り	5	5	5	6
東シナ海はえ縄	2	8	0	0
定置網	2	5	12	43
大中小型まき網	9	61	10	72
敷網	0	0	1	1
あなごかご	0	0	2	3
さんご	0	0	3	3
沖合ごち網	0	0	2	4
ごち網	0	0	2	2
沖合底びき網	0	0	2	6
魚類養殖	0	0	8	19
真珠養殖	0	0	1	13
種苗生産	0	0	2	6
合計	32経営体	121名	73経営体	271名

(出典) 県調べ(令和7年8月時点)

⑰ 沖合漁業

- 沖合漁業(大臣許可漁業)は、東シナ海や日本海等を主な漁場として、本県漁業生産量の4割以上を水揚げする漁業です。その多くは会社経営であり、県全体で1,016名の雇用の受け皿となっています(令和7年6月時点)。
- 主漁場である東シナ海における外国漁船との漁場競合や、燃油・資材の価格高騰など厳しい経営環境が継続し、高船齢化も進んでいる状況です。
- 日本人の乗組員は、61歳以上の割合が2割以上を占めており、若年層乗組員の確保が困難な状況です。労働環境・雇用条件を改善するとともに、技能実習制度等を活用して外国人乗組員を積極的に雇用しています。

海面漁業・養殖業生産量に占める沖合漁業の割合(令和5年)



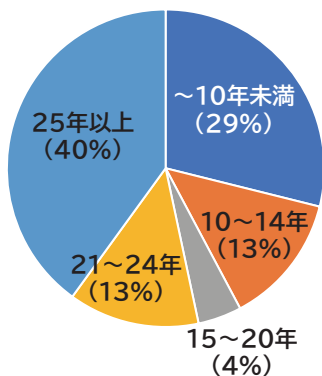
(出典) 漁業・養殖業生産統計

沖合漁業にかかる経営体数、許認可隻数

	経営体数	許認可数	乗組員数 (外国人含む)
大中型まき網	12	21	829
以西底びき網	3	8	78
沖合底びき網	5	12	18
さんま棒受網、東シナ海はえ縄等	9	25	91
計	29	66	1,016

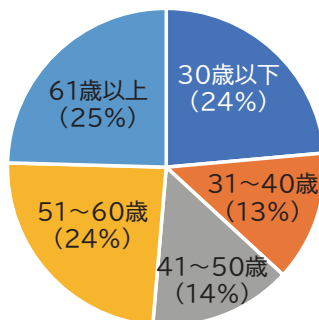
(出典) 県調べ(令和7年6月時点)

沖合漁業にかかる許可船舶の船齢



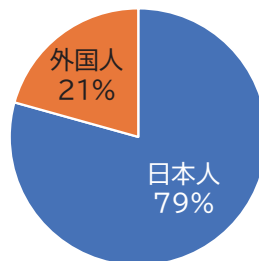
(出典) 長崎県漁船登録システム(令和7年5月時点)

乗組員の年齢構成(日本人のみ)



(出典) 県調べ(令和7年6月時点)

乗組員に占める外国人の割合

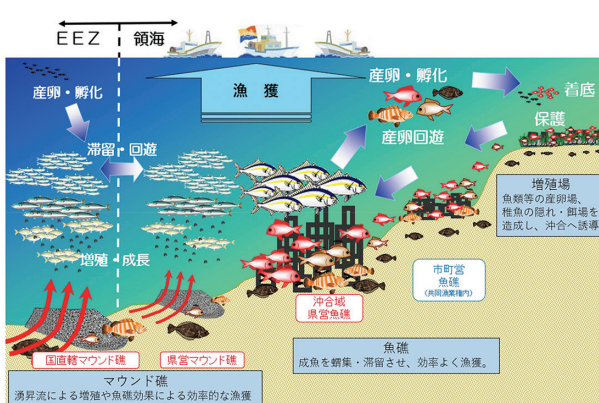


(出典) 県調べ(令和7年6月時点)

⑱ 漁場の整備

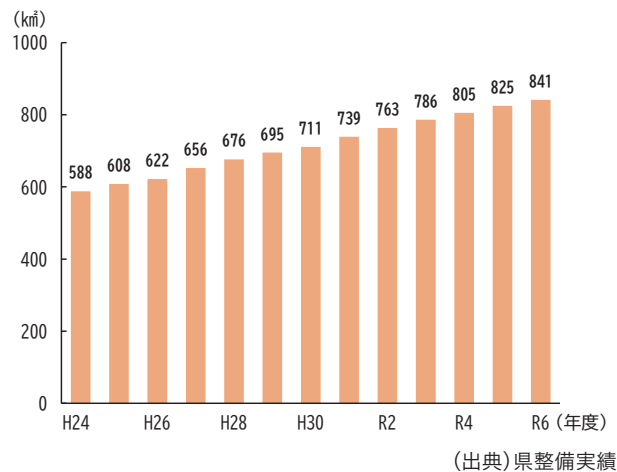
- 水産資源の回復に向け、水産生物の生活史に合わせた沿岸から沖合までの一体的な漁場整備を実施しています。魚礁※、増殖場※、マウンド礁※など、県が整備した漁場の面積は、令和6年度までの累積で841km²となっています。
- 海水温の上昇に伴い、藻場の面積は平成元年の約13,400haから平成26年の約8,200haへと大きく減少しました。その後の取組等により、令和7年には約10,500haまで回復しましたが、イスズミ等の食害の影響が継続しています。

漁場整備のイメージ

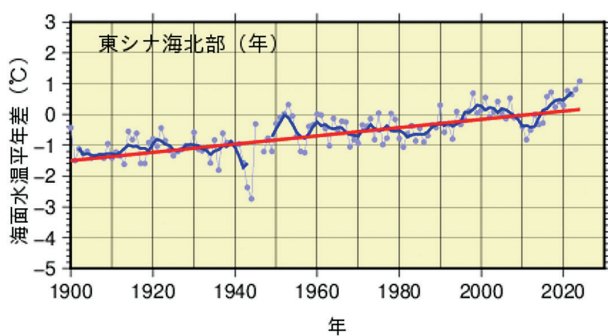


(出典) 県作成

漁場整備面積(累積)

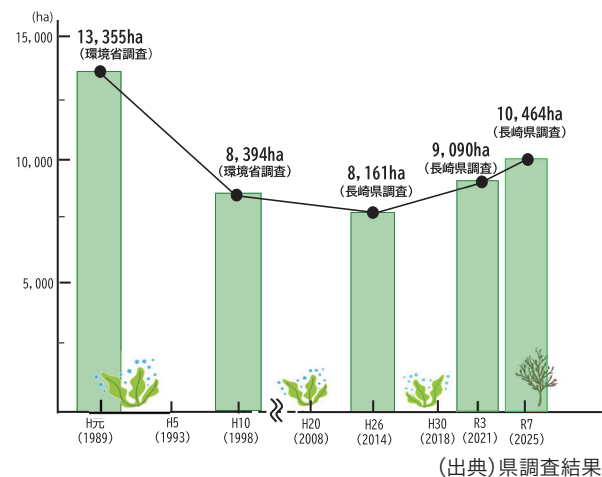


海面水温の経年変化(東シナ海北部)



(出典) 気象庁HP

本県の藻場面積



海藻の食害の様子

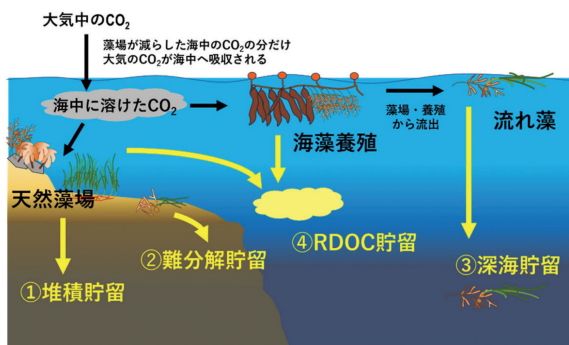


南方系ホンダワラ類※への変化

⑱ブルーカーボンプレジット制度[※]の仕組みと取組状況

- 海藻などの海洋生態系により吸収・貯留される炭素を定量化し、クレジットとして取引するブルーカーボンプレジット制度が令和2年度に開始されました。
- 県内では、磯焼け対策に取り組む一部の市町で本制度が活用され、認証を受けています。

藻場が有するCO₂固定[※]機能の概念図



(出典) 国立研究開発法人水産研究・教育機構
「海藻・海藻藻場のCO₂貯留量算定ガイドブック」

ブルーカーボンプレジットの仕組み

ブルーカーボン(海洋生態系によって吸収・貯留される炭素)を定量化し、JBE(ジャパンブルーエコノミー技術研究組合)が認証する仕組み



(出典) ジャパンブルーエコノミー技術研究組合「Jブルークレジット®認証申請の手引きーブルーカーボンを活用した気候変動対策-Ver.2.5」

県内におけるブルーカーボンプレジット認証取得実績

市町	認証年度	藻場造成のための主な取組
五島市	R4、R6	仕切網、植食性魚類トラップ、ウニフェンス、ウニ駆除、母藻供給
壱岐市	R5、R6	植食性魚類(イスズミ)の駆除
佐世保市	R5	母藻設置、アマモの移植・播種、食害生物駆除、ウニフェンス・魚ドーム設置、海藻種苗投入
新上五島町	R6	ウニ類駆除、母藻供給

(出典) 県聞き取り結果(R7年12月末時点)

⑳ 漁港の整備

- 漁港は水産物流通のスタート地点として、漁船の停泊から出漁準備・漁獲物の陸揚げ・集荷・分荷・加工等の機能を有しているとともに、漁港を中心に産業とまちが形成され、生産の場のみならず生活の場として重要な役割を果たしています。
- 長崎県内の漁港数は令和7年4月1日現在で226漁港あり、北海道に次いで第2位となっています。特定第3種漁港である長崎漁港は、水産物流通の拠点として全国への水産物の安定供給を担う本県水産業を牽引する重要な漁港です。
- 年々激甚化する自然災害の中で、本県の漁港・漁村は台風の来襲を受けており、大きな被害も生じています。

漁港の港勢

漁港種別		漁港数	隻数	陸揚量 (トン)	陸揚金額 (百万円)
第1種	利用範囲が地元の漁業を主とする漁港	178	7,754	28,870	14,074
第2種	利用範囲が第1種漁港よりも広く第3種漁港に属さない漁港	33	2,840	26,665	7,448
第3種	利用範囲が全国的な漁港	4	245	1,346	842
特定第3種	第3種漁港のうち水産業の振興上特に重要な漁港で政令で定めるもの (本県では長崎漁港のみ)	1	194	65,375	18,895
第4種	離島その他辺地において漁場の開発又は漁船の避難上特に必要な漁港	10	699	2,883	1,795
合 計		226	11,732	125,138	43,054

※四捨五入の関係で合計が一致しない箇所がある

(出典)令和5年漁港港勢調査



第1種漁港 (西海漁港:対馬市)



第2種漁港 (生月漁港:平戸市)



特定第3種漁港 (長崎漁港:長崎市)



第4種漁港 (荒川漁港:五島市)

② 漁業協同組合

- 令和7年度現在、本県には62の漁業協同組合が存在し、正組合員[※]数の減少と高齢化が進行しています。
- 正組合員数が100名未満の漁協が全体の50%以上、職員の人数が5名以下の漁協が全体の約40%を占めています。
- 漁協の事業総利益と事業管理費ともに減少し、事業規模が縮小しています。

漁協の規模等の推移

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
組合数	64	64	64	62	62
組合員数(人)	21,001	20,487	19,853	19,318	18,690
正組合員数(人)	7,743	7,416	7,036	6,841	6,556
准組合員数(人)	13,258	13,071	12,817	12,477	12,134
総水揚額(百万円)	53,519	57,995	68,744	72,604	65,525
1組合平均出資金額(百万円)	112	110	107	108	107
1組合平均事業総利益(千円)	75,979	79,531	87,906	92,165	83,097

(出典)業務報告書を基に県で集計

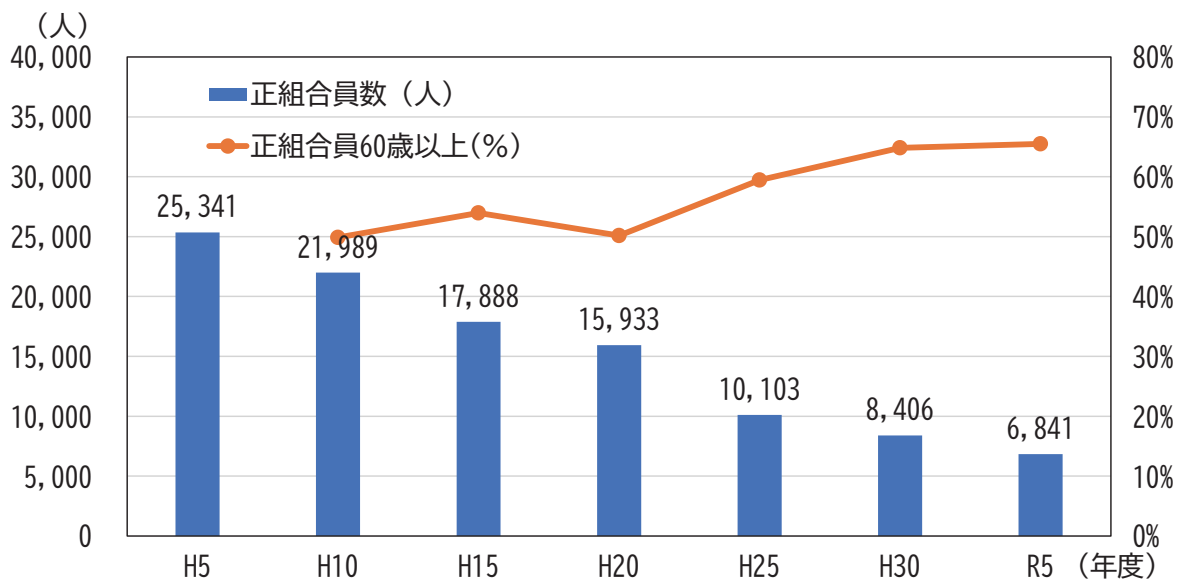
市町別の漁協数

長崎市	6
西海市	4
時津町	1
島原市	2
雲仙市	1
南島原市	5
諫早市	2
大村市	2
佐世保市	5
平戸市	6
松浦市	1
小値賀町	1
五島市	3
新上五島町	7
壱岐市	5
対馬市	11
合計	62

※漁協本所が所在する市町

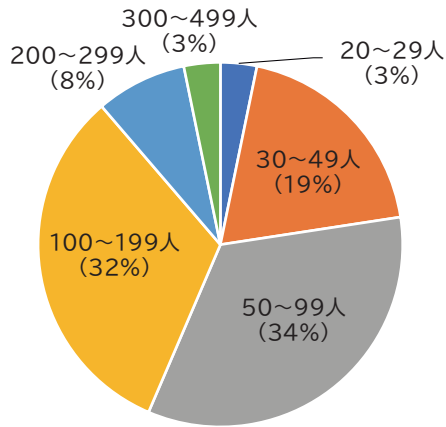
(出典)県調べ(令和7年4月時点)

正組合員数と高齢化の推移



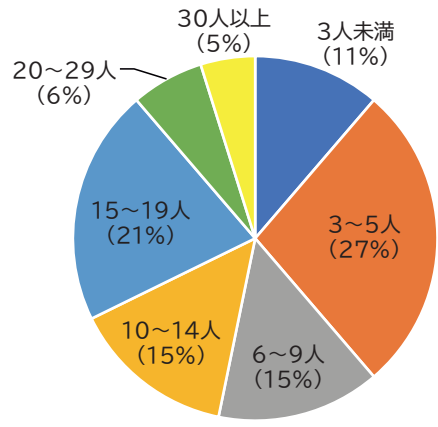
(出典)業務報告書を基に県で集計

正組合員の人数階層別の組合数
(令和6年度)



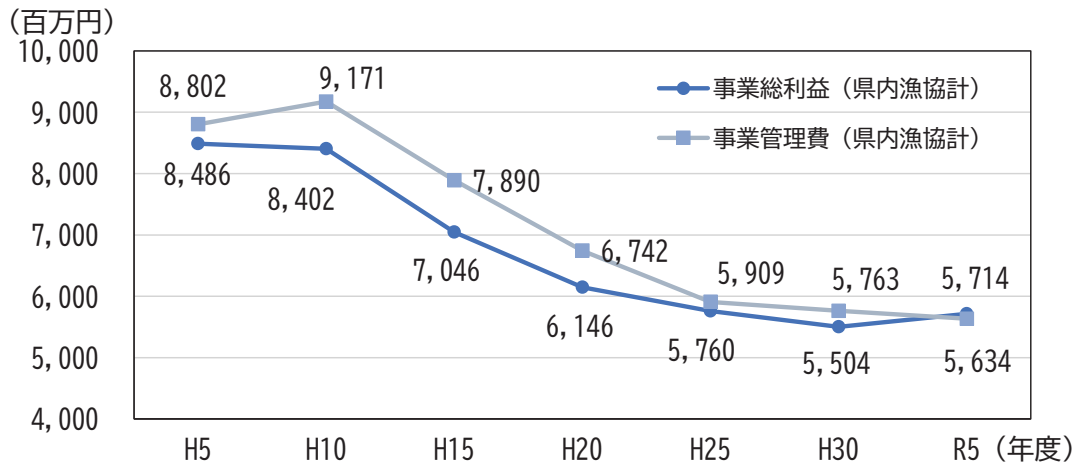
(出典)業務報告書を基に県で集計

職員の人数別の組合数
(令和6年度)



(出典)業務報告書を基に県で集計

漁協の事業規模の推移



(出典)業務報告書を基に県で集計